

1. はじめに

① 背景

近年、コロナ禍を通してネット通販が定着し、浸透したことから、販売ルートも B to B から B to C へと、変化しています。

物流業界においては、人手不足からくる高齢化や、2024年問題をはじめとした働き方改革、燃料等の資材の高騰、SDGsへの取り組み等が求められています。

このような状況に対し、従来どおりの働き方では十分なパフォーマンスを出せなくなります。

競合他社との競争で優位に立つためには、今まで以上に効率的で効果的なビジネスモデルの必要性が高まっています。

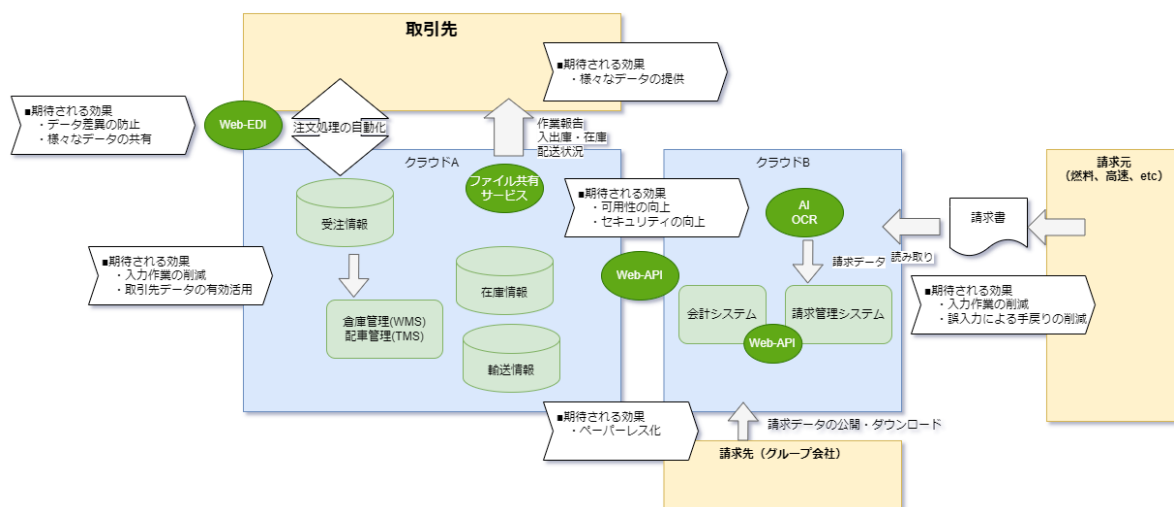
② 経営ビジョン

当社はこれまで、オンプレにて独自の配車システム（TMS）、倉庫システム（WMS）を構築することにより、BtoBの物流事業、倉庫事業を行ってきました。夫々のシステムには様々なデータが存在していますが、データの蓄積、分析、共有が十分に行われてきたとは言えません。

そこで当社では、クラウドにシステムを統合化しデータをステークホルダーへ「見える化」することで、透明化し、分かりやすくします。その手段としてデジタルを推進します。

この「デジタルを活用した見える化」が新たなサービスを生み出し、生活インフラとも言える物流が止まることなく、地域・経済・社会の発展に貢献するものと考えます。

③ イメージ



1) クラウド化

オンプレの各システムをクラウド上に再構築し、システムの可用性を向上します。

未だに請求書を紙で郵送しておりコストが掛かっているため、配信サービスによりペーパーレス化を行い、印刷・封入・郵送費の手間やコストを削減します。

倉庫管理（WMS）、配車管理(TMS)を統合したソリューションを導入、経理システムとAPI連携することで、夫々のシステムに重複して存在していたマスターデータ等を排除し、ストレージにかかるコストを削減します。

2) Web-EDI、ファイル共有サービスの促進

未だに社内及び取引先との受注、在庫情報のやりとりをメール、FAXで行っています。

Web-EDIを導入し、受注情報を倉庫管理（WMS）、配車管理(TMS)へ連携することにより、これまでの手作業を削減し、注文書や納品書のやり取りを自動化することで、物流のスピードアップと誤送防止を図ります。また、ファイル共有サービスにより、入出庫・在庫、配車状況を取引先へ公開し、顧客満足度を向上します。

EDIにより得た取引データから需要予測を正確に行い、市場の変化を感じ取り、データに基づいた経営を行います。

3) AI-OCRの導入

毎月、膨大な量の請求書（紙）を目視で確認し、会計システムへ手入力で登録しています。そのため、データ入力の作業時間が掛かり、かつミスが発生します。

この問題を改善するため、クラウド型 AI-OCR を導入し、社内システムとAPI連携することにより、人的コストの削減を図ります。

2. ロードマップ/KPI

様々なオンプレ上のシステムをクラウド上へ統合、再構築していきます。

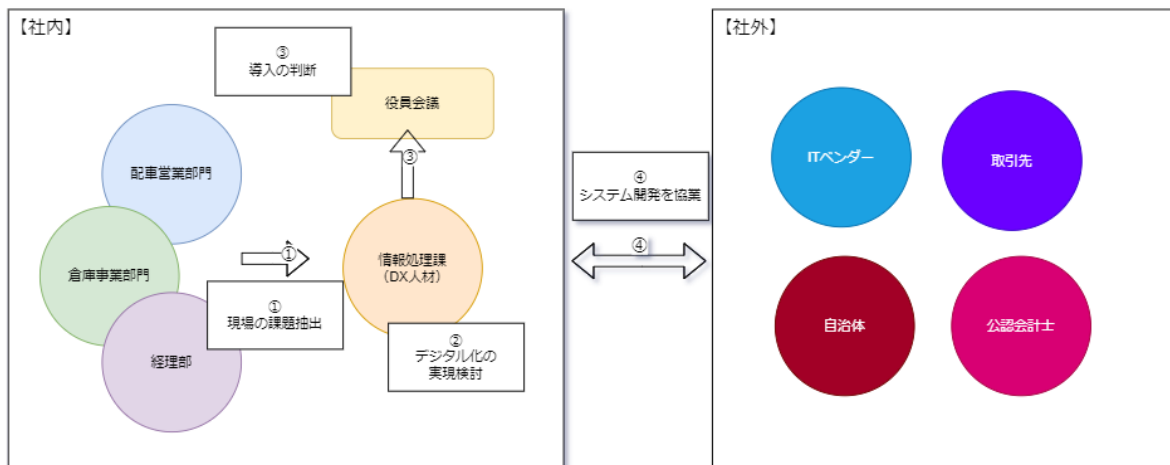
クラウド上へ構築すると共に取引先との Web-EDI、ファイル共有サービスの共有を促進していきます。また、様々な手入力作業を削減するため、AI-OCRを導入し効率化していきます。

ロードマップ/KPI		2024年度	2025年度		2026年度		2027年度
KPI	目標値	現時点 (下半期)	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期
クラウド化 (TMS、WMSの統合)			構築		拡張		
KPI	導入事業所数				1事業所	累計) 5事業所	(累計) 10事業所
Web-EDI、外部データソースの促進			構築		拡張		
KPI	取引先数				1社	(累計) 3社	(累計) 5社
AI-OCRの導入			構築		拡張		
KPI	導入事業所数		1事業所	(累計) 5事業所	(累計) 10事業所		

3. DX 推進体制

現場（配車営業部門、倉庫事業部門、経理部）が主体的に課題を抽出し、情報処理課でデジタル化の実現検討を行います。検討結果を役員会議にて導入判断します。

システム開発は内製では出来ない部分を、I Tベンダー、自治体等と協業し開発していきます。



4. 人材育成

企業向け DX・AI 人材育成研修サービスと連携し、全社的に IT リテラシーの底上げから行い、現場が主体的に遂行していける環境を整備します。また、E-Learning システムを使用し定期的に行うことで、形骸化を抑止します。また、IT 人材の創出を進める為、IT パスポート試験等の国家資格取得を推奨していきます。

5. セキュリティ強化

「情報セキュリティ基本方針」を策定し、周知徹底します。

また SECURITY ACTION 制度に基づき、2022年8月6日に、二つ星を宣言しました。

